



まちづくり・コミュニティ

町会・自治会

防犯・防災・みまもり

こども

教育

シニアライフ

健康

スポーツ

芸術・文化・趣味

環境

ふくしとサポート

NPO・ボランティア

国際交流

男女共同参画

農業・商工業

[ホーム](#) > [市民レポーター](#) > 「東久留米歴史散歩（二）大円寺板碑（小山町二丁目）」



大円寺は天台宗のお寺で総本山は滋賀県の比叡山延暦寺です。お寺は東久留米市役所から徒歩で七分程度の至近距離にあります。天長年間（824—34）に慈覚大師によって建てられたと伝えられています。

きょうは、ここにある板碑（いたび）を見学してみました。大円寺には二十近くの板碑がありますが、なかでも「南無阿弥陀仏」の六文字の刻まれた月待（つきまち）板碑は東久留米市の指定文化財となっています。月待板碑は永正十三年（1516）に建てられ二十四名の連名があり、藤次三郎などの武士らしい人や、妙春・妙永などの女性らしい人の名前も見られます。

板碑は本来先祖供養のために建立した塔婆の一種で、その起源はインドの仏舎利塔にあるとされています。板碑は関東に多く見られますが、特に埼玉県に多いとされています。秩父や荒川の上流で産出される緑泥片石を用い、板状であるために板碑と呼ばれています。

鎌倉時代に地方豪族や僧侶によって多くは建てられましたが、板碑の特色は頂上に山形を作り、その下に二段の切り込み（二条線）と額部を作り、身部は上下に広く作られ、上部に供養の対象となる本尊を仏像や梵字であらわされ、下方には建立者や建立の年月が書かれています。

板碑は多くの文字を刻むために身部が広がっています。建てられた目的は死者の菩提を弔うためとされましたが、加工しやすい反面、風化や衝撃に弱いとされました。板碑は東久留米市では大円寺以外にも宝泉寺、多聞寺、米津寺でも見ることができます。

東久留米市ではありませんが、板碑として有名なものとして元弘の板碑が東村山市の徳蔵寺にあります。この板碑は新田義貞の鎌倉攻めに出陣した義貞家臣の齊藤三郎ら三人の戦死者の名前が刻まれた板碑です。この板碑により合戦を伝えた太平記の内容の信憑性を裏づける貴重なものになり、大正三年（1914）に国宝の指定を受けました。徳蔵寺は東久留米からあまり遠くないため見学をおすすめします。



大円寺はかつて小山村の中央に位置して民衆の信仰を集めていたと思われます。境内には本堂を中心にして、正面には山門があります。門前には庚申供養塔、馬頭観音塔や地藏菩薩などの石造物が並んでおり、板碑の見学とともにそれらを見ることもおすすめしたい。

市民記者「浅羽芳久(南町 在住)」

参考図書「東久留米の江戸時代」（東久留米市教育委員会）